

令和4年度第1回小郡市子ども・子育て会議 会議要約

○日時 令和4年8月22日（月）13:30～14:40

○会場 小郡市総合保健福祉センター「あすてらす」2階 視聴覚室

○次第

1 委員長あいさつ

迫本委員長があいさつ

2 議題

(1) 計画の進行管理について

①令和3年度実施状況について

(事務局) 令和3年度重点施策の実施状況および委員からの意見に対する回答について説明

(委員) 保育所の年度末現在の待機児童数を伺いたい。5歳児でどこにも行っていないお子さんがいるのか？

→ (保育所・幼稚園課) 待機児童数は、令和4年3月1日現在22名であり、5歳児の待機児童はいない。特定園を待つ5歳児は1人で、入所しない理由は不明である。

(補足説明) 5歳児の1名については資料を確認したところ、幼稚園に在園していて、保育園の申請が出ている児童である。

(委員) 5歳児で保育園へ通園していない児童を1人知っている。地域でどのような支援をしていったらよいかということで質問させていただいた。

(委員) GIGAスクールについて、義務教育は憲法第26条で無償とされている。デジタル教科書の導入にあたって、タブレット配布にあたっては無償とすべきである。買い替えの時期が来る。また、通信費も無償にすべきである。

→ (教育総務課) 義務教育に係る費用は無償であるべきと考えている。買い替えについては、国からの財源はまだ通知が来ていないが市としてすべきである。通信費は、1,000円の就学援助費の対象となっている。

→ (委員) 買い替えはすべて市がするのは厳しいと思う。財源が必要だと思う。全ての子どもたち、家庭に対する通信費の負担も無償とすべきである。安心して学校に通わせられる、家庭でのタブレット教育を受けられる環境を整えるために、小郡市としても頑張ってもらいたい。

(委員) 既に通信やタブレットがある家庭もあり、平等という観点からすると、難しいかもしれませんが、全世帯で貸し出すとか通信費を市の回線にするとか考えて

もらいたい。

(委員) 国が憲法に則ってどう判断するのか、国に仰がなくてはならないと思う。

(委員) 学校現場では、〇〇小学校の家庭のうち32%が就学援助を受けている。通信費として1,000円上乗せがあった。ぎりぎりのラインの家庭は厳しい実態があると思う。平等に全員支援出来たら良いと感じている。タブレットやルータを貸し出したが、接続方法が家庭で分からないことがある。

オンライン授業で授業をそのまま流すクラスがあった。小学校では対面で授業するのも大変なのにオンラインは無理があると思った。3人の子どもを1対1でオンライン授業をやってみた。1対1ならばオンライン授業も可能かと思った。30数人を相手にオンライン授業するのは無理があると思った。校長会では、効果的な使用方法について模索している状況である。

(委員) 以前、識字学級というものがあった。情報と識字、リテラシーとしては新たにやっていかなければならないものである。

(委員) パソコンに詳しい人でも機種によって通信出来ないこともある。先生への問合せが増え、負担になっていると思う。授業以外の負担が増える。パソコンの設定の質問対応を学校でなく別の分野で市役所管轄であればいいのかなと思う。そうすると、先生がもうちょっと子どもに関わる時間が増えると思う。

タブレットの活用方法について、オンライン授業は小学1年生には難しい。教科書は重いので、電子教科書でタブレットだけ持って行けば学校で授業が受けられるようになると良い。小学1年生でも荷物が重くて腰が痛いと言っている。

(委員) 荷物の持ち帰りについては、文部科学省から数年前に通知があり、学校に置いていても良いことになっている。低学年は学校にタブレットを置いて充電している。長期休暇では持ち帰っている。学校により差があると思う。

②令和4年度重点施策について

(事務局) 令和4年度重点施策(案)について説明。

(以下に表記する「No. ○囲み数字」は、重点施策(案)のNo.である。)

(事務局) No. ①1 - (1) - 1 「保育所(園)、幼稚園、認定こども園」について説明

(事務局) No. ②2 - (4) - 5 「子育て困難家庭への支援」について説明

(事務局) No. ③5 - (1) - 2 「児童虐待の防止・早期発見に向けた対策の推進」について説明

(委員) 認定こども園については、幼稚園側から申請するものなのか、市側から依頼するものなのか。メリットだけなのかと思うので、全て認定こども園にしたらいと思う。

→ (保育所・幼稚園課) 認定こども園への移行については、幼稚園からの移行は、

保育所機能が備わり待機児童問題の解消にもつながるので市としても積極的に進めていきたい。保育園からの移行は、幼稚園機能が加わる。園と協議して進めている。全て認定こども園にするには、財源が必要であり、政策的なものがある。

(委員) 障がいを持った子どもの性被害を把握するのは難しい、障がいを持っている子どもだからでなく、子どもにとって難しい問題がある。性被害について子どもが自分の気持ちを言えるチェックシートを作るのは、行政がするのか、学校現場が用意するのは難しいと思う。国や公的機関がつくっている状況があるのか？見つけきれなかった。

→ (子育て支援課) 厚生労働省から通知あってない。小郡市も性的虐待チェックシートを持っていない。

→ (委員) いじめについてはあるが、性的関係のチェックシートは学校にもないと思うので、今後、作って欲しい。

(2) 計画の中間見直しについて

保育所・幼稚園課および子ども育成課が量の見込みや確保方策について中間見直し予定であることを説明。

(委員) 学童保育所で、高学年は長期休暇だけの利用があるのか。

→ (子ども育成課) 高学年は15時～16時まで授業があり平日の利用希望は少なくなるが、長期休暇中だけは利用したいとの希望は以前からあった。受入体制が可能なのか、アンケート結果をみて検討していきたい。

(3) その他

なし

3 今後のスケジュール

(1) 令和4年度第2回小郡市子ども・子育て会議

(令和5年1月～2月開催予定)

議題を中間見直しについてとする予定。

4 閉会あいさつ (副委員長)

梶原副委員長があいさつ